

くるま旅と地域振興

一般社団法人 日本RV協会

JRVA[®]

道路インフラの充実度①

- ・アメリカ合衆国の面積 962万km² 日本の約25倍
- ・日本の面積 37万km²
- ・アメリカ合衆国の高速道路総延長 7.5万km 日本の約8倍
- ・日本の高速道路総延長 9,000km

各国の道路整備状況

国(地域)	年次	道路延長	道路延長の内訳			1km ² 当たり 道路延長
			主要幹線 道路	二級道路	その他	
日本	07	1,200,858	61,930	129,329	1,009,599	3.18
韓国	08	104,237	17,352	86,885	...	1.05
中国	08	3,730,164	114,518	285,226	3,330,420	0.39
アメリカ合衆国	08	6,506,221	93,481	1,923,787	4,488,953	0.68
イギリス	08	419,634	52,634	122,323	244,677	1.72
ドイツ	08	644,288	52,848	178,151	413,289	1.80

総務省統計局「世界の統計2011」より

⇒ 主要諸外国と比べても、国土に対する道路の長さはトップクラス

道路インフラの充実度②

- ・自動車旅行のスタイルの多くは**通過型**である
※「通過型」とは、旅行者が滞在しない、点から点に移動してしまう観光スタイル

要因① 旅行者がメインとする観光地に集中する
→主要観光地に日帰りで行けてしまう。

要因② 宿泊施設の不足
→宿泊施設が充実している主要観光地へ人が集まる。

要因③ 目的地まで道路一本で直行できる

要因④ ホテルや食事の予約などの時間制限がある
→寄り道をし辛い環境。

⇒車中泊者もターゲットに、滞在型の旅行スタイルへ転向させる。

車中泊ブームはいつから？

2009年～2011年の間、高速道路が一律1,000円に

→高速道路を降りずに、SA・PAでの車中泊が流行
(道の空いている夜間に移動するなどの工夫もされていた)

→車中泊経験者の増加

⇒ 旅行スタイルが変化

その結果、道の駅などでの車中泊者が急増



車中泊マナー問題

・長期滞在

3か月以上にもわたる長期滞在

・ゴミの処理

家庭ごみ、未分別ごみの不当放棄、ポイ捨て

・電源

携帯電話の充電、家電への給電

・水

食器類の洗浄や、洗面・歯磨きなど

・駐車スペースの占有

車外での調理、休憩



日本RV協会では公共駐車場でのマナー厳守10カ条を定め、車中泊マナーの向上を図っています。

公共駐車場でのマナー厳守10カ条



長期滞在を行わない



キャンプ行為を行わない



電源から電気を盗まない



ゴミの不当投棄はしない



トイレ処理は控える



グレータンクの排水は行わない



発電機の使用には注意を払う



オフ会の待ち合わせは慎重に



無駄なアイドリングをしない



車椅子マークの所に駐車しない

分煙ならぬ分駐のお話

- 無料休憩施設である道の駅の悩み
駐車場の有料化、退去勧告、24時間体制の監視が難しい

そこで『分駐』という発想

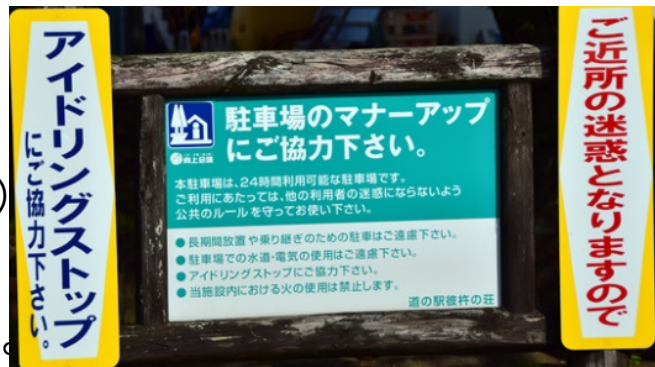
『分駐』とは…

- ・スペースを分けることで車中泊者への誘導先が出来る
- ・利用の前に、氏素性をあらかじめ聞いておくと

マナーが格段に良くなる(低料金でのチェックインシステム)

例)RVパーそのぎの荘(長崎県東彼杵町)

- ・駐車場利用に関する注意を掲示しても効果が薄かった。



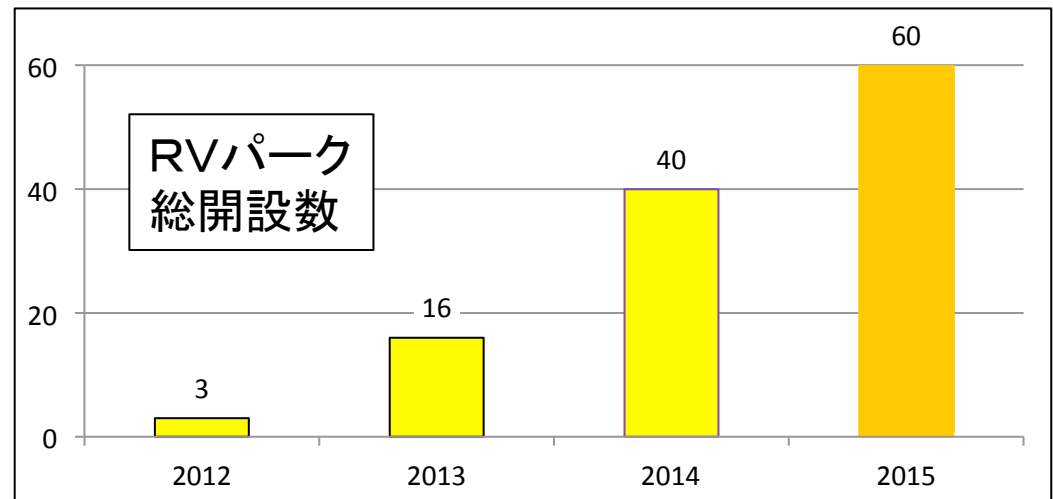
⇒ 一般駐車場の一部をRVパークへと改装

⇒ 車中泊者がRVパークへと移り、利用者のマナーが向上

RVパークとは①

『より安全・安心・快適なくるま旅』をキャンピングカーオーナーをはじめとする車中泊ファンの皆様にご提供する、車中泊専用の有料駐車エリアの事です。

現在のRVパークの総数は**61カ所**
年々その数を増やしています



RVパークとは②

- ① ゆったりとした駐車スペースを有していること
- ② 一定期間の駐車が可能であること
- ③ 近隣に入浴施設があるか、あるいはシャワー設備等を備えていることが望ましい
- ④ ゴミ処理が可能であること(有料が好ましい)
- ⑤ トイレなどの設備を有すること
- ⑥ キャンピングカー等が使用できる、電源コンセントが設置されていること
- ⑦ 入退場の時間制限が緩やかであること

安心・快適な 日本RV協会認定 車中泊施設

JRVA
日本RV協会

電源

地域
密着

温泉
近接

宿泊

湯YOUパークについて

入浴

提携先の宿泊施設で

就寝

自分のキャンピングカーで

キャンピングカーユーザーの会員制クラブ、「くるま旅クラブ」の特典の一つ

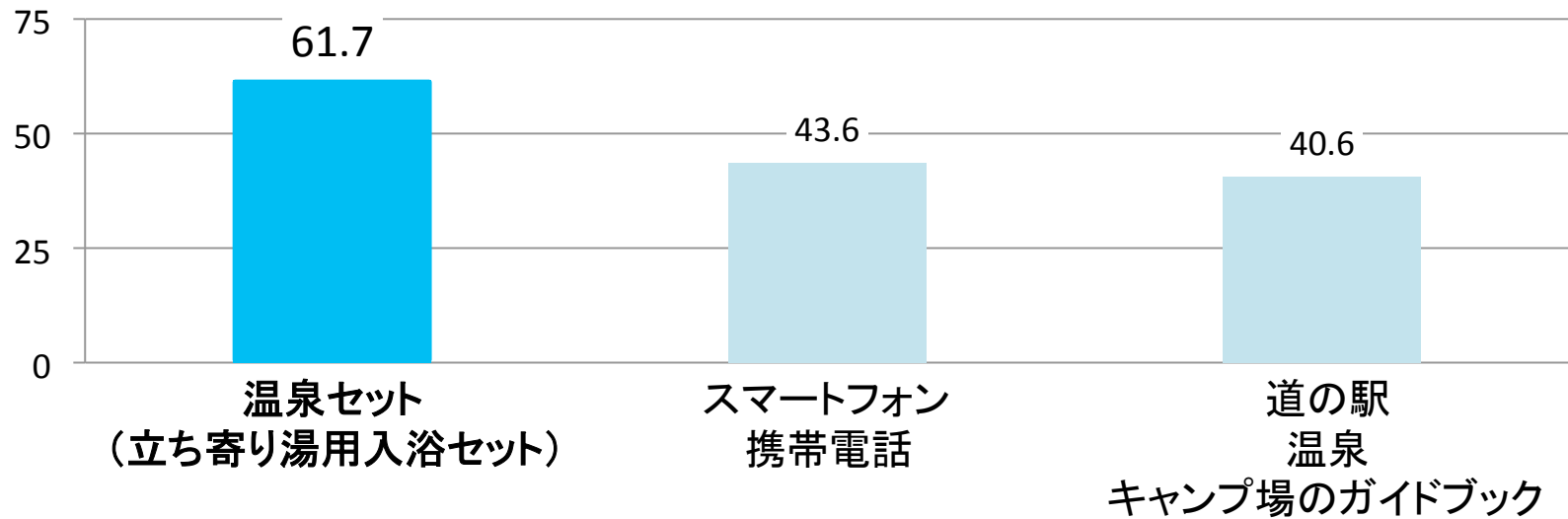
現在、126カ所の宿・ホテルが湯YOUパークとして提携



くるま旅と温泉

- 日本全国に2万カ所の温泉施設がある
立ち寄り温泉施設がこんなにあるのは日本だけ
だからこそ、温泉施設で車中泊
くるま旅においても温泉が重視されている。

キャンピングカー旅行の必需品は？(複数回答)



RVパーク「たまがわ」の例

※2012年7月28日開設 日本初のRVパーク

新たな収入源の確保

周辺施設(温泉・食堂など)への波及効果

日本RV協会の全国広報による知名度・認知度の向上

オフシーズンの駐車場の有効活用

有料化する事による利用者マナーの向上

車中泊に対する一般駐車場利用者からの理解



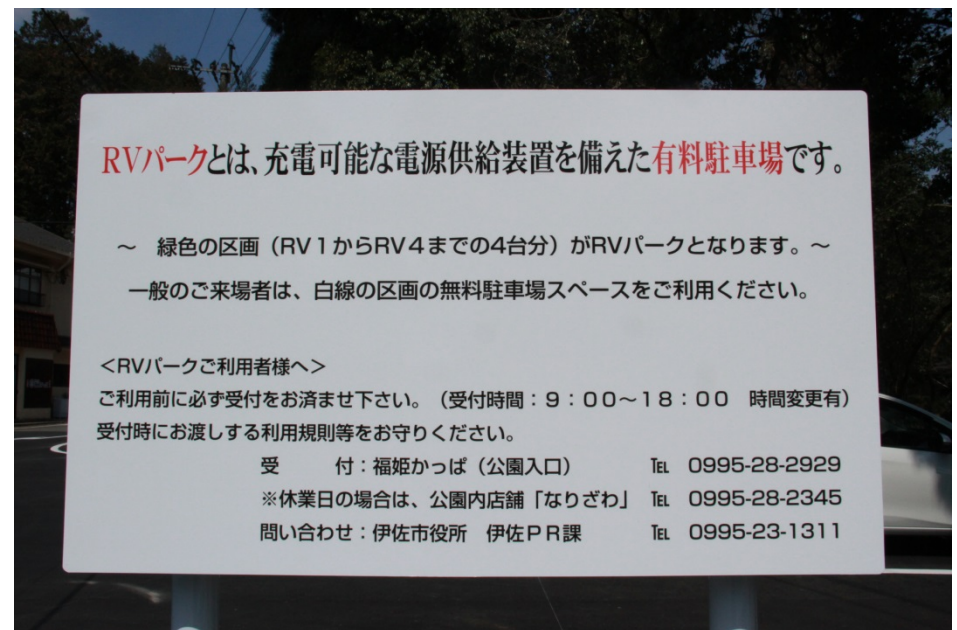
くるま旅と地域振興 (車中泊の未来を考える)

- 箱もののリゾートからの脱却
- いかに滞在していただくか
- 「温泉」と「お酒」がキーワード
- 飲んだら泊まろう 車中泊
- 地域のキャパシティを考える



施設の取り組み

- 車中泊ならば、地場産のお酒を楽しみたい方へも安心して提供できる。
⇒ 地域の居酒屋(飲食店)などの送迎サービス
- RVパークに地域の飲食店の電話番号を記した看板を設置 (地域との連携)



地域振興のために必要な事

滞留人口を増やす仕組み

・体験型の観光 お土産の購入

⇒作った物を持ち帰る場合、車であれば安心できる。

・観光マップの作成

⇒車であれば広域の観光マップを作ることも可能

・丸1日、あるいは数日間を要する旅行行程も、車中泊・キャンピングカーであれば宿泊場所としての施設を新たに作ることも難しくありません

農業 漁業との連携

＜リピーターの確保＞

春の種まき



秋の収穫祭



漁業体験



車中泊施設紹介

RVパーク ドッグランWANport (群馬県吉岡町)
ドッグランとカフェレストランに併設されたRVパーク
キャンピングカーならばペットと一緒に旅行ができる



RVパーク犬山ローレライ麦酒館 (愛知県犬山市)
ビールの醸造所とレストランに併設されたRVパーク
地ビールと食事を堪能した後、そのまま車に戻って就寝が可能

RVパーク御立岬公園 (熊本県芦北町)
道の駅や海水浴場などのレジャー施設を含んだ、
大きな公園内にあるRVパーク
敷地内には温泉もある為、一施設で1日中遊ぶことができる。



今後の展開

国立公園や観光地の駐車場

近くであればあるだけ、観光に時間を割くことができる
また、夜間は静かなところが多い



除雪ステーション

広い敷地があり、アウトドアシーズンには稼働していない
さらに幹線道路に面している



田舎のコンビニ・GS
旅行の必需品が気軽に揃えられる

防災ツールとして①

- ・生活インフラがそろっている非常時のシェルターとしてのキャンピングカー
→災害後72時間が最も危険な時間。

「移動」+「宿泊」ができるまさに**災害適応車両**



居住スペース



電源確保



水道設備



トイレ

防災ツールとして②

『交通拠点』＝『観光拠点』＝『災害時拠点』としての活躍
平常時には全く役に立たない「防災施設」

そこで「RVパーク」

平常時

- ・100V供給
- ・車中泊エリア
- ・WiFiによる観光情報

RVパークとして稼動

災害時

- ・生活電源としての100V供給
(ソーラー発電システム)
- ・モーターホーム設置
(緊急時に設置できる敷地確保)
- ・WiFiによる災害情報

災害時の拠点として稼動

防災ツールとして③

日本RV協会は、東日本大震災の際には復興プロジェクトとして、キャンピングカーを無償貸与しました。
緊急時にすぐに対応できることが重要



最後に

人と人とのふれあいで 新しい故郷を作り出す

くるま旅にはその力があります

お問い合わせはこちらまで

一般社団法人 日本RV協会

<http://www.jrva.com/>